

「川」と「川を渡る橋」 の 情報と資料

解説編

2018年1月初版

0. まえがき

古い時代から、川は、人の生活環境と密接な関わりがあります。橋は、川に通路を渡すことを目的とした重要なインフラストラクチャ(社会資本)です。橋の設計・製作・架設・維持・管理などの記録と同時に、橋と川とに関連する伝承や歴史も多く残されています。橋は地域の人だけでなく、旅行者も含め、興味と親しみを持たれる構造物です。橋を話題に取り上げるとき、情報の参照先が分かると助かります。しかし、橋は地域密着型の構造物ですので、全国的に資料を総合化する編集作業はほとんど行なわれてきませんでした。情報技術(IT)が進歩し、インターネットの利用が普及するようになって、資料の管理と利用の方法に新しい時代を迎えるようになりました。橋は、科学技術的な課題だけでなく、人文学的な話題なども含め、広く興味を持たれています。したがって、多様な整理方法が考えられます。ここにまとめた資料集は、「川を渡る橋」を主題にしてまとめたものです。陸橋(高架橋など)は省きました。技術上の情報だけでなく、観光案内的な利用方法も考えました。

日本各地には、多くの個性的な山と川があります。昔話「桃太郎」は「…おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に…」の書き出しです。川沿いには、起伏の少ない道が普通に見られます。山歩きとも合わせて川筋の楽しみ方があります。下流から上流に行くにつれて、自動車を通れる舗装された道路から、次第に幅が狭くなって、自転車、更に歩いて通るしか方法のない「そま道」、沢や滝などと続きます。川沿いの景色を楽しむことを主目的とした山歩き、船を利用する川下りもあります。カヌーを楽しむ人も増えています。川筋を辿ってドライブやサイクリングも盛んになりました。このとき、自然景観の中に、人工構造物の橋やダムなどが眼を楽しませてくれます。橋そのもの、また橋を背景にした写真を記念に撮り、ウェブで公開する例もみられます。そこで、川と橋の名前を知りたくなります。橋の形式や寸法などの橋梁技術的なデータだけでなく、創架や架け替えなどの技術史的な話題も、一般の人が楽しめる情報です。ここにまとめた「川を渡る橋」の目録は、主として、ささやかな観光案内の参考に利用することも目的として編集したものです。ユーザ側のパソコンにダウンロードして印刷利用もできるように、ページ数を抑えた、多種類のPDF版を編集しました。

一方、肩肘を張らないで、趣味としての山歩きを楽しむ人も多くいます。大陸国家の地形は、日本の山容と大きく異なります。欧米では、アルプスなどの高地登山は、冒険またはスポーツ的な扱いをしています。やや特別な準備をしなければなりません。その登山技術を、日本では、当初、軍事技術として輸入しました。一般の人が真似て、集団登山訓練、それも冬季に行くなどは、避けるのが賢明です。体力の大きくない女性や子供には向かない面があります。日本には、昔から山岳信仰があります。山を踏破する、征服すると言う欧米風の考え方とは異質な面があります。里山(さとやま)と言う用語があって、人里と接して、人の影響を受けた生態系を持った山を言います。山菜採りや、きのこ狩などの庶民的な楽しみ方があります。里山と対比した山が深山(みやま)です。日本は四季ごとに景観の移ろいがあります。これらの山は、川とともに、景色を楽しみたいものです。

島田静雄

目 次

0. まえがき	1.4 水環境と行政区分の用語
1. 用語の定義と説明	1.4.1 水系の分類
1.1 情報と資料の構造	1.4.2 行政区分
1.1.1 情報とは	1.4.3 漢字2字に短縮してコード化した固有名詞
1.1.2 個別情報と一覧情報	1.4.4 北海道の水系
1.2 河川名と橋名に使われる漢字	2. 地理情報
1.2.1 川の名前の特徴	2.1 一般的な地理情報
1.2.2 橋の名前の決まり方	2.2 地形の成り立ちを理解すること
1.2.3 漢字の読みの区別とこだわり	2.3 水文学という学問分野がある
1.2.4 北海道はアイヌ語原義の固有名詞がある	3. 一覧情報
1.3 川と関連のある用語	3.1 通路名と河川名の索引
1.3.1 水環境は危険環境でもある	3.2 川を渡る橋の検索方法
1.3.2 水系とそれに関する用語	4. 情報の参照元とその整理方法
1.3.3 陸橋	5. ファイル化の例(岐阜 長良川に架かる橋)
1.3.4 資料利用の方法	

用語索引

5W1H	1.1.1	溪谷	1.3.2	振興局	1.2.4	二級河川	1.4.1
アニミズム	2.2	溪流	1.3.2	人文地理	2.1	二級水系	1.4.1
暗渠化	2.3	検索語	1.1.2	水系	1.3.1	ハザード	1.3.1
一級河川	1.4.1	湖沼	1.3.1	水源	1.3.2	坂東太郎	1.2.1
一級水系	1.4.1	洪水	1.3.2、2.2	水文学	2.3	派川	1.3.2
噂話	1.1.1	降水	1.3.1	生活環境	1.2.1	氾濫原	1.3.1
運河	1.3.2	高架橋	1.3.3	生活廃水	2.3	藤井資料	3.2
海無し県	1.4.1	災害	1.3.1	ダム	0.	普通河川	1.4.1
河口	1.3.2	里山	0.	谷川	1.3.2	伏流水	1.3.1
河川	1.3.1	産業排水	2.3	沖積平野	1.3.1	伏流水脈	1.3.1
河川コード	1.2.1	支川	1.4.1	地形学	2.2	分水嶺	1.3.1
河川名索引	1.2.1	支流	1.3.2	地方整備局	1.4.2	本流	1.3.2
渴水	2.2	資料	1.1.1	諜報	1.1.1	水環境	1.3.1
川筋	1.3.2	自然災害	2.2	データ	1.1.1	水争い	1.3.2
橋名索引	3.2	自然地理	2.1	データベース	1.1.2	用水路	1.3.2
橋梁	1.2.2	準用河川	1.4.1	堤内地	1.3.1	陸橋	1.3.3
下水処理	2.3	情報	1.1.1	都市化	2.2		

1. 用語の定義と説明

1.1 情報と資料の構造

1.1.1 情報とは

情報(information)は、コンピュータ時代になって普通名詞並みに使う用語になりました。語源の歴史は比較的新しいものです。軍医であった森鷗外(1862-1922)が「敵情報」の中 2 字を採った**軍事用語**と言うのが定説です。情報は**報告**(report)の形を取ります。その1単位は、表題と中身とから構成されます。必要十分な要件は、(5W1H)を満たすと考えるのが分かり易いでしょう。それらは「いつ(when)・どこで(when)・誰が(who)・何を(what)・どうした(how)」の5区分で考えます。、「なぜ(why)」がありませんが、そもそも情報を必要とする要望や動機がなぜに当たります。「何を」は、**表題**(title)に代表されます。分かり易い表題にするときは、形容詞を付けた名詞を使います。「橋について」だけでは大雑把ですので、この文書では「川を渡る橋の情報」を扱うことにしました。実際の整理作業には、「川の情報」が重要なデータ項目になりますので、この文書のような表題にしました。個別の区分の、参照に使う別の情報の項目名は**資料**(matereal)です。著作権のこともありますので、出典の文献名などを入れるのが義務の一つです。これには、インターネットを介して得られる資料が多くなりました。資料の中身の利用は、数値など、個別の**データ**(data)です。情報の用語は、「情」の文字を含みます。これは、情報発信者の心情が入ることを意味していて、資料やデータの選択に報告者の私意が入ります。世俗的な説明で言えば、**噂話**(うわさばなし)や**ニュース**が情報です。その中身には、正しくない(fake)内容の情報も有るのです。また、校正ミスやデータの取り違えなども起こります。正しい内容であることを確認することが重要な問題になってきました。電子化された資料は、校正を弾力的に処理できる利点があります。なお、情報と同質の用語に**諜報**(intelligence)があります。こちらは影を持った情報であって、スパイ的な項目を扱う場合に言います。

1.1.2 一覧情報と個別情報

インターネットを介した検索サービスが便利になりました。具体的に橋の名前や河川名を**検索語**(keyword)に使うと、パソコンのモニタ画面上で程ほどの情報を見ることができます。これを**個別情報**とします。散発的な情報になり易いので、標準的なデータ構成法を工夫し、個別情報を集積して**データベース**化します。この作成・維持・管理は、高度なコンピュータ技術が利用されますので個人作業の範囲を超えます。一方、個別情報を利用するユーザは、モニタ画面上で観察します。モニタ画面は寸法が狭いことと、**一過性**の表示ですので、より詳しい情報を知りたいときは、検索操作を繰り返す必要があります。また、後から見たいときは、印刷して残すようにします。この利用方法は、モニタの視野が狭いので、望遠鏡を使った星の観測と似たところがあって、俗に言えば「葦の髄から天井覗く」観察法です。天空は広いので、目標の星を含む或る領域範囲の他の星との関連が分かる、例えば星座の知識を参考にします。橋や川の場合、名前を知っていて、それを検索語に使うことができます。実は、全国的に調べると同名の橋が多く見つかります。管理者側での命名のほか、地元での呼び名がある場合もあって、検索に掛からないこともあります。そこで、全体の**索引**を作っておいて、そこから出発して、検索効率を上げる方法が必要です。こちらを一覧情報とします。橋の情報というとき、具体的に、何を知りたいかの項目名とそのデータ中身の説明を、表1にまとめました。これはデータベース化する時の分類項目です。

表1. 橋についての情報区分

見出し	項目内容のあらまし	5W1H
ID 番号	データベース管理に必要な番号です。頭は英字にします。内部データです。	
橋名	標準は漢字並び。文字並びの最後に「橋」または「橋梁」が付きます。	what
読み(ふりがな)	漢字の橋名読みは複雑です。同じ漢字並びで読みが異なることがあります。	
都道府県名	都道府県別にファイル化されるときは省略します。	where1
所在地	橋の所在地で、市区町村名です。市町村合併などがあるのが厄介です。	where2
路線名	橋が渡る通路です。道路橋では、国道・県道の番号。鉄道では路線名など。	where3
架橋対象	橋が渡る河川・運河・水路名など。現代は陸橋が増えました。	where4
年月日	建設、架け換えなど、節目の西暦年です。	when
橋長	橋は、道路または鉄道の一部です。管理上、橋の全体長さが重要です。	how1
橋幅	道路橋では幅員、鉄道橋では、単線・複線の種別です。	how2
構造構成	橋は、幾つかの径間の並びで構成されます。橋梁工学的な情報です。	how3
特記事項	設計者・製作者・上部工・下部工の施工者、補修・改修・廃橋などのデータ。	who
出典資料	情報の出所の文献名、または、その管理番号(藤井資料も参照)	

1.2 河川名と橋名に使われる漢字

1.2.1 川の名前の特徴

人の生活環境は、良質の飲み水と灌漑などの用水が得られる川沿いに集まります。川には、地域ごとに、親しみや畏れを表す名前(固有名詞)が付けられています。古い時代から伝えられてきた名前ですので、原則として日本語の伝統的な和語の言い方を残しています。別に編集した[河川名索引](#)で見ると、日本全国で同名の河川も多種類あることが分かります。川の名前は、必ずしも流域全体を同じ本流名で通しているのではなく、地域ごとに、また支流ごとに固有の名前で呼ばれています。河川の管理は、総合的には国が責任を持つため、川すべてが参照できる資料を整理しておく必要があります。国土交通省は、管理上の[河川名と河川コード](#)(river code)とを決めています。しかし、地域では、固有の名前のほか、愛称名などあって、管理用の名前と異なる例もあります。例えば、利根川は坂東太郎、筑後川は筑紫次郎、吉野川は四国三郎の別称があります。川の名前は、同時に、地域名になっていることも少なくありません。江戸時代まで、一般庶民は家単位を区別する苗字を持っていませんでした。明治8年(1875)、政府はすべての人名に苗字を付けることを法律化しました。そのとき、苗字の選択方法の一つが地域名の採用でした。そのため、特殊な姓を持った人は、出身地が分かることがあるのです。

1.2.2 橋の名前の決まり方

橋の名前は、その地域の河川名を付けることもしますが、人工的な構造物ですし、橋の数も多くなりますので、恣意的な呼び名も多く使われています。こちらは河川名に比べて歴史が浅いこともあって、漢字の音読みも使われています。江戸時代以後、近代の始めまで、建設当初、和語読みで決めた橋名に漢字を当てたため、転じて、音読みの方が通称になった場合があります。例えば、「よろずよばし」を、「万世橋・万代橋」と表記したため、読みとして「まんせいばし・まんだいばし」の方が普通に使われるようになりました。橋は公共企業体が主導して架設されることが多かったこともあって、官僚的な命名も多く見られます。「第一、第二…、新…」を持つ橋名がその一例です。鉄道橋では、「…橋梁」と使うことになっています。したがって、例えば「富士川橋」は道路橋、「富士川橋梁」は鉄道橋であることが分かります。しかし、道路橋では、国道・県道など、管理者や自治体別に命名されることもあって、結果的には同名の橋が並ぶことがあります。鉄道橋も、国鉄・私鉄で管理上は同名が付いている例があります。

1.2.3 漢字の読みの区別とこだわり

「川名」は和語読みが普通です。元の読みとは異なる異質な漢字並びを当てることもあるのが厄介です。さらに、「…川」と表記されると、濁りの有り・無しの違いで「かわ・がわ」の二通りの読みがあります。他の語を含め、漢字並びの熟語を声に出して読むとき、「濁る・濁らない」の区別には大体の約束があるのですが、地域によって川名の読み方にこだわりがあります。したがって、河川名・橋梁名の索引では、できるだけ、読み(ふりがな)を見出し語データに含めました。しかし、字数が増えますし、どの読みで索引を引くのかの迷いがあります。橋名索引の編集では、ページ数を抑えるため、読みを省くことにより、Shift JISコードの漢字並び順を採用しました。正しい読みのデータは、ページ数が多くない都道府県別にまとめたファイルの方に含めました。

一方、「…橋」と表記されているとき、その読みが3通りあります。「はし・ばし・きょう」です。川名と共に、どう読むのが正しいかは、その地域で決まっていますが、他の文書資料で引用されるとき、間違っただけの読みが使われ、その読みで全国的に知られるようになった例が幾つかあります。河川名の例として「富士川」と「豊川」があります。正しくは(ふじかわ)と清音、(とよがわ)と濁音です。市名の豊川市は清音読みが正式です。一般的に言うと、関西では清音読みが多く、関東では濁音読みの方が多ようです。明治時代の政府の要人は関西出身者が多かったので、関東でも清音の読みが増えた経緯があります。中部地区では、トヨタ自動車創始者の名前は(とよだ)と濁ります。発祥の地は拳母(ころも)、現在は市名を変え、トヨタ自動車の城下町の性格を持たせた、清音化された豊田市(とよたし)が正式名です。

1.2.4 北海道はアイヌ語原義の固有名詞がある

北海道は、江戸時代まで、アイヌ民族が狩猟を主な生業として居住していて、本州の農耕文化とは異なり、縄文文化の流れを長く伝えていました。本土からの入植と開発が本格化した明治以降、河川を含めた地域の固有名詞に、アイヌ語の読みを引き継いで、カナ、または音が似た漢字並びを当てることをしました。そのどちらも使うことがあるので、索引を作るときも参照するときも混乱が生じます。それを受けて、橋梁名にも多くのカタカナ語での表し方が見られます。因みに、[河川名索引](#)で北海道地区はカタカナ名の見出し語が全体の5%もありました。北海道の面積は、東北6県と新潟県を合わせたほどあります。この文書では、北海道の行政区分を都府県並みの面積を持つ14の振興局単位に分けてデータ整理の実用区分にしました。

1.3 川と関連のある用語

1.3.1 水環境は危険環境でもある

漢字 1 文字で川(かわ)・橋(はし)と使うときは、主に、話し言葉の中の訓読みです。少し改まった用語では音読みの熟語として河川・橋梁と使います。単に橋と言うときは、人が歩いて川を安全に渡ることを目的にした人工的な構造物です。ここでの人の定義は、車馬を含めます。近代以降、車は、列車や自動車を含めるようになり、人が歩いて渡ることを、許さない、また制限する橋も建設されるようにもなりました。川と言えば、人工的な構造物である堤防で区切られた安全な居住空間を川筋の外側に考え、堤内地と定義しています。内と外とを間違えて理解されることが起こります。自然河川の流域全体は、歴史的に氾濫原であった沖積平野、眼に見えない伏流水脈、湖沼、そして山岳地も含めます。その流域の水の供給元である降水量(雨と雪)を含めた全体を水環境と約束しています。専門用語では水系(drainage system)です。山岳地は、河川が地形を削った残りです。個別の水系の境界は、地形上では分水嶺です。人の居住環境は、水環境の中にあります。川から恩恵を受けると同時に、洪水などの災害に遭う危険もあります。川は人の居住空間から見れば障害物(ハザード)です。先祖から伝えられてきた歴史的な知見で、やや高めの地形に居住空間が構成されてきました。ところが、現代になって、統計的な予測を超えた想定外の水害を経験することが増えています。考えてみれば、何十億年も掛けてきた地球規模の地形造成の歴史と比較すれば、人が経験した災害の文書記録の年数は高々数万年です。時間比率にすれば、百万分の1です。地形造成は現在でも続いています。したがって、人から見た自然は、何が起こるか全く予想できない災害が起こる怖さがあります。

1.3.2 水系とそれに関係する用語

日本は海に囲まれた島国であって、大陸国家に比べると、川の規模は小さいのです。しかも、世界各国の標準と比較すると、狭い国土に降水量が3倍も多いこともあって、その水を集めて流れる大小さまざまな川筋があります。或る範囲の降水を集める複数の川は、最上流の水源を起点とし、急流で川幅が狭く、水質のきれいな溪流が続くことがあり、観光や川釣りの名所として正規の河川名とは別に「…溪」とし知られる例が多くあります。沢は溪とほぼ同義の語であって「…沢」と呼ぶこともみられます。下流に向かうと、複数の支流が合流し、最終的に一つの本流の川筋になって河口から海に流出します。その途中に湖沼や、人工的なダム湖があることもあります。人工的な流路としての運河、用水路、派川を持つこともあります。システム的に言えば、川の流路は木構造を構成します。なお、谷(たに)とは細長い低地を意味した語です。川が無い谷もあります。そのため、川がある場合、溪谷(けいこく)、谷川(たにがわ)と使う例があります。水系の境界は、山の連なりの分水嶺です。江戸時代までは、一万石以上の封建大名の領地は、原則として複数の独立した水系の集合で構成されていました。明治時代の廃藩置県によって現在の府県単位に再編成されたものです。ただし、川は障害物の性格もありますので、川が自治体の境界になっていることもあります。その川と、川を渡る橋の管理に、どちらの自治体が責任を持つかが重要な問題です。また「水争い」が地域の社会問題になることも珍しくありません。

1.3.3 陸橋

ここで紹介する文書では、橋の情報を整理するとき、川を渡らない橋(陸橋など)の資料とデータの方は省かれているか、詳しい説明が無いことにご注意下さい。川の名前と橋の名前とを対にした資料をまとめておき、そこから、より細かな橋の情報を参照できるように計画しました。近代以降、都市部の鉄道や高速道路の建設に陸橋が多く見られるようになりました。これらは、道路や鉄道の上を渡す構造物ですので高架橋とも呼ばれます。都市景観の立場から見れば、情緒を考えない醜悪な構造物になることが多いのが残念です。ただし、ローマ時代に建設された水道橋は陸橋に分類しています。水の無い谷も、ほぼ水平に水路を渡す構造です。英語では、水環境を渡る橋は bridge とし、陸橋は viaduct に分類しています。

1.3.4 資料利用の方法

川を渡る橋に限定して、その橋の情報を知るための作業方法は、まず、川の名前を見出しとして、その川の河川コードを利用します。国土交通省が決めた河川コードは、10桁の数字並びです。しかし、数字並びでは、その意味を解読する手間が掛かりますので、この資料集では2字の漢字見出しを付けた4桁数字のコードで参照するようにもしました。河川名には、各地に同名もあります。検索対象河川がどこの都道府県にあるかを確認することに索引を利用します。河川名索引には、支流の支流のような末端の河川名もすべて含めてありますが、一般的には本流名と主要な支流名だけの抜き出した目録が使い易いでしょう。これを20ページ程度の二つの抄録的な目録に編集しました(第3.2節、表5参照)。

1.4 水環境と行政区分の用語

1.4.1 水系の分類

日本の河川の総数は、合流点などの節目で区切った川筋単位で数え、その総数は、約3万5千5百です。用語の使い方として紛らわしいのですが、**一級水系**とは、国が重要であると指定した水系です。、全国で109あります。一単位の水系は、一筋の幹線としての**本流**に、**支川**、**派川**、さらに支川の支川のように、多くの川筋の集合です。このうち、国が直接管理している川筋が**一級河川**です。その川筋名総数は、支川や派川も含めて、全国で約1万4千あります(2014年4月30日現在)。ただし、全部の川筋ではなく、河口から或る区間までが指定され、上流部など、残りの川筋は都道府県や、市町村が管理する**準用河川**と**普通河川**に分類されています。利根川、信濃川など、複数の都府県にまたがる大河川は、一級河川です。**二級水系**は、都道府県が管理する、その都道府県内で完結した**水系**であって、総数は約2千、**二級河川**の川筋名総数は約7千1百あります。河口は、普通、海に面しています。ただし、重要度が大きい水系は、一級水系に格上げされています。日本の都道府県は大部分が海に面していますが、栃木、群馬、埼玉、山梨、長野、岐阜、奈良、滋賀の各県は**海無し県**です。北海道では上川および空知振興局管内が海に面していません。個別の水系は、隣接する都府県の一級水系、二級水系に繋がっていることに特徴があります。

1.4.2 行政区分

河川の、種々の行政上の課題は、都道府県単位で扱うことが普通です。より大きな面積単位として、北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州の**地域**にまとめます(図1と、次項の表2参照)。しかし、国土の整備を扱う国土交通省**整備局**の地域区分とは、部分的に異なる例があります。例えば、山梨県は関東整備局の管轄です。富士川は、山梨県を源流として笛吹川を支流とし、静岡県に流れます。したがって、富士川水系だけは関東圏に含ませています。その他の静岡県の一級河川は中部整備局で管理しています。なお、北海道は次の第1.4.4項で説明を補います。

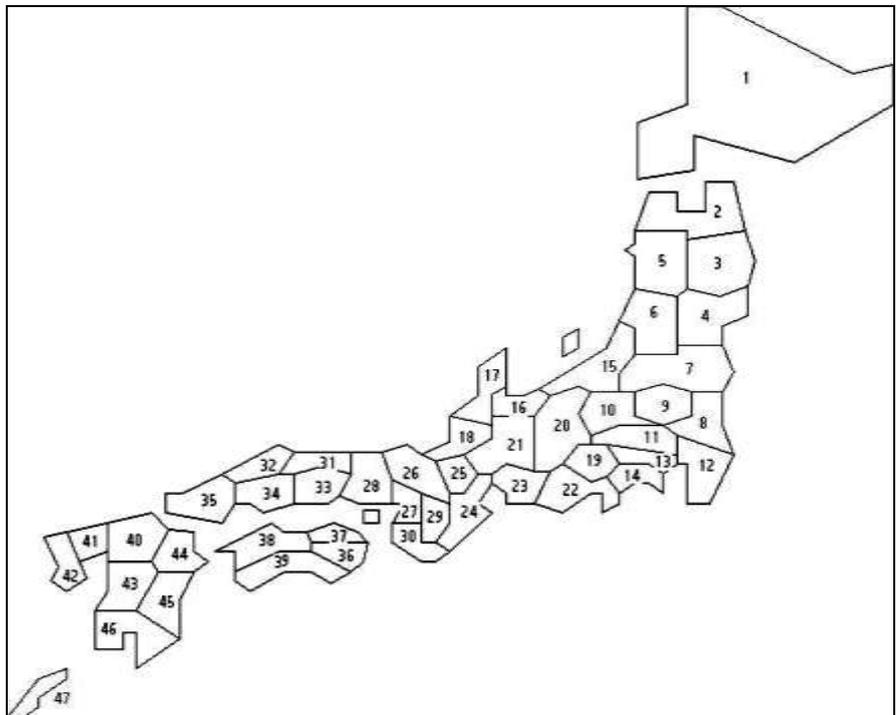


図1 都道府県の番号(JIS)

1.4.3 漢字2字に短縮してコード化した固有名詞

漢字は**象形文字**(character)であるため、日本語の中での熟語化して使う漢字の読み方が一意に分からない欠点があります。しかし、**表音文字**(letter)である仮名やローマ字での表記に比べると、字数を節約できる利点があります。河川名索引の編集では、目録の見易さとページ数の節約とから、データの文字数を一定長さに揃えるように、部分的に短縮化を採用しました。その要点を説明します；

- (1) 都道府県は、3文字の漢字表記が多いので、頭の2字にで間に合わせます。三文字以上になる神奈川県・和歌山県・鹿児島県の場合、頭の2字で表記しても間違っても理解されることはありません。
- (2) 北海道地区は、振興局名を漢字2字で表すことができます。大部分はアイヌ語起源ですが、オホーツク振興局はロンヤ語を使ったものであって、カタカナ2字「オホ」で表すことにしました。
- (3) 一級水系名は、109あります。文字数が3字以上あっても、頭の2字をキーワードにしました。**荒川**は同名で関東地域と北陸地域(羽越)にありますので、前者は「荒関」、後者は「荒北」で参照します。
- (4) コンピュータを利用して目録や一覧の編集をするとき、固有名詞をコード化して利用する必要があります。世界的に通用する国名コードでは、日本はJP,またはJPNのような英2字または英3字が決められています。数字3桁を使う場合もあります。日本は392です。これに倣って、この文書では下の表2に示すように都道府県名の英2字コードを決めました。

表2 地域区分・都道府県番号(JIS)・都道府県名・英字コード・県庁所在地市名

東北	1	北海道	HK	札幌	中部	17	石川	IS	金沢	四国	33	岡山	OY	岡山
	2	青森	AO	青森		18	福井	FI	福井		34	広島	HS	広島
	3	岩手	IW	盛岡		19	山梨	YN	甲府		35	山口	YK	山口
	4	宮城	MY	仙台		20	長野	NG	長野		36	徳島	TS	徳島
	5	秋田	AK	秋田		21	岐阜	GF	岐阜		37	香川	KK	高松
	6	山形	YG	山形		22	静岡	SZ	静岡		38	愛媛	EH	松山
	7	福島	FS	福島		23	愛知	AT	名古屋		39	高知	KO	高知
関東	8	茨城	IB	水戸	近畿	24	三重	ME	津	九州	40	福岡	FO	福岡
	9	栃木	TG	宇都宮		25	滋賀	SG	大津		41	佐賀	SA	佐賀
	10	群馬	GM	前橋		26	京都府	KY	京都		42	長崎	NS	長崎
	11	埼玉	ST	さいたま		27	大阪府	OS	大阪		43	熊本	KM	熊本
	12	千葉	CB	千葉		28	兵庫	HG	神戸		44	大分	OI	大分
	13	東京都	TK	東京		29	奈良	NR	奈良		45	宮崎	MZ	宮崎
	14	神奈川	KN	横浜		30	和歌山	WK	和歌山		46	鹿児島	KG	鹿児島
北陸	15	新潟	NI	新潟	中国	31	鳥取	TT	鳥取	47	沖縄	OK	那覇	
	16	富山	TY	富山		32	島根	SM	松江					

1.4.4 北海道の水系

行政単位の種別は47都道府県に分けます。しかし、図1に示すように、北海道は、都府県の面積と同じ程度の地域自治体の集合に分けることを考えると実践的です。その分け方に、14の振興局の区分を当ててみました。これは、都府県ごとに地方整備局の下部部局で河川を管理する行政区分と対応させたものです(下の表3参照)。この報文では、振興局名の最初の2字を、都府県名のように使うことにしています。



図2 北海道の水系を区分するときの振興局名

表3 北海道振興局管内市町村名

振興局名とコード	管内の主な市町村名 (読みは郵便番号簿で調べることができます)
空知(そらち) 総合振興局(SR)	夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町
石狩(いしかり) 振興局(IK)	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村
後志(しりべし) 総合振興局(GB)	小樽市、島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町、共和町、岩内町、泊村、神恵内村、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
胆振(いぶり) 総合振興局(TB)	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、白老町、厚真町、洞爺湖町、安平町、むかわ町
日高(ひだか) 振興局(HD)	日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町
渡島(おしま) 総合振興局(OJ)	函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町
檜山(ひやま) 振興局(HA)	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、今金町、せたな町
上川(かみかわ) 総合振興局(JK)	旭川市、士別市、名寄市、富良野市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、幌加内町
留萌(るもい) 振興局(RM)	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町
宗谷(そうや) 総合振興局(SY)	稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、幌延町
オホーツク 総合振興局(OH)	北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町
十勝(とがち) 総合振興局(TT)	帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町
釧路(くしろ) 総合振興局(KR)	釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町
根室(ねむろ) 振興局(NM)	根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町



① 空知総合振興局



② 石狩振興局



③ 後志総合振興局



④ 胆振総合振興局



⑤ 日高振興局



⑥ 渡島総合振興局



⑦ 檜山振興局



⑧ 上川総合振興局



⑨ 留萌振興局



⑩ 宗谷総合振興局



⑪ オホーツク総合振興局



⑫ 十勝総合振興局



⑬ 釧路総合振興局



⑭ 根室振興局

2. 地理情報

2.1 一般的な地理情報

例えば「利根川は関東地方を流れる大きな川である」と知っているのは、地理の知識の方であって、学問としての地理学の知見とは言いません。多くの人々は、日本全国を通して、どの県にどのような名前の川が流れているかと言う自然地理的な情報を、必ずしも詳しく知っているとは限りません。これを知る手掛かりが欲しいところです。インターネットでの検索が便利に利用できなかった時代、この種の情報は、小・中学校の地理教科書に載りました。前章で紹介した北海道地区の、振興局別の地図は、自治体の境界と自治体名が読み取れます。戦前の地理の教科書は、県名・県庁所在地の地理情報に加えて、県の主要な産業、観光地など、今でいう人文地理的な情報もありました。これらの情報は、頭のどこかに潜在意識のように刻み込まれ、各地への観光旅行をしたいときの動機として働いている気がします。学をつけた地理学・自然地理学・人文地理学は、実学の性格があって、現地に行き実際の地形や産業基盤を理解するとき役に立ちます。「川を渡る橋」の情報は、川が自然地理の情報、橋が人工的な構造物ですので、人文地理的な性格を持っています。

2.2 地形の成り立ちを理解すること

川は、人の生活環境と密接な関わりを持つ自然地形の一つです。川は、水が流れるという動的な性質があって、平和な流れのときだけでなく、渇水や洪水、さらには汚水などが生活環境を脅かします。一方、川と対応する山の方は、相対的に静的です。火山などによる災害とは別に、降雨が間接的な誘因になった地すべり、崖崩れなどの自然災害のあることが対照的です。そのため、降雨と、その水を集める川と付き合うことに知恵と工夫とが必要です。歴史的に見れば、川との付き合い方は、日本では受動的でした。その理由は、日本の地形では、洪水を代表とした自然災害が、いつどのように起こるかの予想ができない怖さを実感してきたからです。近代以降、人工的な構造物で自然災害を抑えるために、科学技術を信奉し、それを応用することが研究されてきました。欧米風には「自然を征服する」の言い方も見ます。日本では、「自然には怖い面がある」、「自然には逆らえない」、「自然との共存」のアニミズムの考え方があることが大きな違いになっていました。日本の近代化は、従来の自然環境を改変して、欧米風の都市化を推進してきましたが、昔からの水環境保全についての先人達の努力を知っておくことは重要です。地形学は地理学の一分野です。学問的な知識を、現地の地形の理解に応用する知恵が要望されています。先人達は、人が住むには適さない場所、現代で言うハザードの場所、を避けて居住環境を造成してきたからです。

2.3 水文学という学問分野がある

歴史の古い読み方の用語ですが、地文(ちもん)、水文(すいもん)、天文(てんもん)、そして人文(じんもん)があります。最後は(じんぶん)と使うようになりました。水文学(すいもんがく)は、河川や湖沼のような、眼に見える水だけでなく、伏流水など、眼に見えない地下での水の動きも含めて研究する実践的な学問です。日本の生活環境では、良質の飲み水は井戸を掘って地下水を汲み上げます。単純な吸い上げ式のポンプは、地下水面が地表から10m以内の深さまでしか使えません。したがって、近代以前は、丘陵地での用水確保は溜池を利用しました。流水がそのまま飲み水として使える場合は、水源に近い溪流沿いです。地表の河川は、動植物に起因する有機物を微量に含むのですが、生活廃水、悪くすると産業排水などが流れ込む都市化された地域は、自然浄化の能力の限度を超えます。近代になって、欧米の科学技術に学んで、人工的に河川の流れに手を加える構造物が増えてきました。河川の立場から言えば、傷めつけられる扱いを受けています。とりわけ、都市の中小河川は惨めです。都市は、人口が多いので、飲み水の確保に上水道の整備が必須です。同時に下水処理とのバランスが必要です。都市化が進んだ環境の中小河川は、すでに自然浄化の機能が期待できなくなって、上水の確保に人工的な河川である用水路を特別に建設しています。平行して、下水処理にも予算が必要です。川が持つ自然浄化の機能は、水が空気に触れる、或る程度の水流があることが条件です。川が澱むと、浄化作用が止まります。この浄化は、生物学的であって、水草、さらには砂利や砂などの表面の嫌気性微生物が主役です。人工的な滝や噴水設備は、好気性微生物が浄化を助けます。上水・下水の浄化場は、砂を濾過層としてゆっくりと水を通す施設が主役です。都市部の河川や運河は、水が澱む(よどむ)こと、橋梁などで蓋をされることが多くなり、暗渠化や、最悪は埋め立てが進みます。しかし、川が在ったと言うことは、水文学的に見れば、それなりの自然則に従った必然性がありますので、暗渠化や埋め立てで川が見えなくなったことによって、予想もしなかった水害が発生する時代になりました。日本最初の超高層の霞ヶ関ビルが計画されたとき、上水量の供給能力が不足することが心配された経緯があります。近年の超高層ビルの乱立は、人口集中を招き、行く行くは上水道供給の限度を超える断水の起こる確率を増やし、都市がスラム化に進むことが予想されています。

3. 一覧情報

3.1 通路名と河川名の索引

橋は通路の一部です。言わば、通路を支える脇役の構造物です。川を渡る橋の情報(表1参照)の中、橋が渡す通路の方(道路や鉄道の路線名)と、橋が渡る河川名など(架橋対象)の方との二つが重要な項目です。したがって、全国を通して、道路の路線番号の目録、鉄道路線名の目録、そして河川名の索引を参考資料としてPDF版にまとめWEBで公開することにしました。ページ数が多くなりますので、ユーザ側でダウンロードして印刷して閲覧に利用する使い方を薦めます。PDF版は、テキスト形式のファイル(.TXT)に変換できますので、ユーザ側で自前の作業用データファイルに編集することができます。

表 4. 参考データに利用する PDF ファイル

ファイル	内 容	ページ数
道路の 路線番号→路 線名索引	国道や県道は、路線数が多いので、データの管理上、起点と終点とが定義された路線名と路線番号が決められています。自動車時代になって、高速道路、有料道路、バイパスなど道路路線が多様化してきました。路線番号は道路地図に表示され、実際の道路標識に見られます。	139
道路の 路線名→路線 番号索引	上の逆引き索引です。路線名は地域の市区町村名を利用していますが、他府県の町名は旅行者には分かり難い面があります。町村合併などで地名が変わることもあります。路線番号の方が使い易いでしょう。	73
鉄道の 路線名一覧	鉄道といえば、以前は全国を網羅する国有鉄道(国鉄)を意味しました。例えば東海道本線などは、時刻表で眼に触れる機会が多いので、そのままデータ項目に使います。国鉄の分割民営化で、私鉄との競合、新幹線の建設など、鉄道も多様化が進みました。	12
日本の 河川名索引	日本は、降水量が多いこととあって、島国でありながら多くの中小河川があることが、世界的に見れば非常に特異です。日本全国で、川筋名の数は約3万5千五百もあって、同名の河川名も多くみられます。国土交通省は都道府県単位で固有の河川コードを決めています。この索引は、河川名から河川コードを引くように編集したものです。	184

3.2 川を渡る橋の検索方法

橋の名前を知っていて、どの川筋に架かっているかの**橋名索引**は、別のPDF版資料にまとめてあります。こちらは、**橋梁史**の見方で蓄積された**藤井資料**を情報源としています。過去に存在し、補修の記録や、現在は廃橋になった橋名も年代順に集めてあって、言わば橋の戸籍謄本の性格があります。藤井資料は、JSCE 土木図書館 HP から検索できる**データベース**として一般公開されています。現時点(2018)の「**川を渡る橋の情報**」を知りたいときに利用できる資料を整理しておくことが、この文書の主題です。一般的には、インターネットの検索機能で簡単に検索できると思うのですが、その利用には、かなり高度な操作技術と、予備的な常識が必要です。それに加えて、パソコンの狭い画面に表示される情報量は多くなく、一過性です。じっくりと情報を参考にしたときは、個別の検索に先立って、網羅的に資料を集め、ページ数の多いハードコピー化した索引・目録・資料集を手元に置いて、気が向いたときに、いつでも見られるようにしておく便利です。橋は地域密着型の構造物です。日本全国を通して見ると、橋の数は何十万もあるようです。地域ごとに創架や架け換えもありますので、全体の実態は流動的です。したがって、或る視点を決めて資料集を定期的に編集することになります。この文書は、未公表の藤井資料をベースにして、都道府県ごとに、主要な河川沿いの橋梁を紹介するようにまとめました。資料は木構造に構成してあります。基本構成は、まず**都道府県名のサブフォルダ**から検索を出発し、個別の河川名でPDFファイル化した資料で閲覧するようにしてあります。ただし、複数の都府県にまたがる一級河川沿いのデータ、例えば木曾川では、長野県・岐阜県・愛知県・三重県に分かれます。

表 5. 川を渡る橋の見方で整理した資料

ファイル名	内 容	概略ページ数
一級・二級水系の主要な河川名	国土交通省の河川コードから整理しました。	20
一級・二級水系の主要な橋梁名	川沿い単位に橋名だけを集めた資料(作業中)。	>18
川を渡る橋フォルダ	都道府県単位で橋情報を分冊目録で編集中です。	≒47×500

4. 情報の参照元とその整理方法

橋は、下に何も支えの無い空間に、通路を安全に渡す構造物です。したがって、橋の設計・製作・輸送・架設、そして利用には力学原理を応用します。橋自体の重さに加えて、通路を通る人馬や車両の重さも考えます。したがって、力学的に合理的で、かつ経済的構造を工夫しなければなりません。このことが、結果的に橋の造形美を醸し出し、多くの人に親しまれるのです。一般の人は、地域の景観にアクセントを添える個性的な橋の構造を楽しみます。しかし、技術的・管理的な立場から橋に興味を持つ人は、部材の合理的な組み上げ方、つまり設計者が意図した構造形式の方に注目して橋を観察します。例えば、単にトラスと言っても、ハウ・ワーレン・プラット・平行弦・曲弦・上路・下路・ポニー・単純・連続…などの形容詞的に使う構造種別を情報項目として必要とします。より具体的な数値データとして、長さ方向の支間構成、幅員などもあります。或る特定の橋について、考えられるあらゆる情報を集めておくことは望ましいのですが、情報管理の立場からは、情報項目を抑えた要約的なデータベースを作成しておいて、そこから個別に細部情報にアクセス(参照)できる方法を提案することが実践的です。次の第5章は、例題として「岐阜県・長良川に架かる橋」のリストです。このリスト作成経緯と使い方の説明をします。

長良川は、ほぼ岐阜県内で完結している、鶺鴒いで有名な川であって、一級水系木曾川の支流の一つです。一般向けに編集されたウィキペディアで、程々の情報を見ることができます。次章のリストは、藤井邦夫氏の未公開資料をベースにし、ウィキペディアのデータで補完したものです。そのリスト項目は、第 1.1.2 項、表1の情報区分に従っていますが、追加項目と省略項目があります。まず、ID 番号は追加項目です。都道府県単位で R0001 から始まる一連番号です。この番号付けは、筆者がパソコン上で整理作業をするときの都合で付けたものです。英字 R は川(river)の意義です。

省略項目は、都道府県名(このリストでは岐阜県)、架橋対象(ここでは長良川)、特記事項、出典資料です。特記事項は、橋の設計・建設に関わった企業名、補修・架け換えなどの技術史的資料などです。出典資料は、主に藤井資料が採用している番号であって、別に編集された「PDF 版:橋の情報と資料」にまとめてあります。なお、国道・県道は、路線番号に書き換えてあります。路線番号の無い橋は、市道などと考えて下さい。これは、道路地図を参照するときの便を考えたためです。リストの橋名並びは、下流から上流に向かう順を標準としますが、正しい順であるかどうかの確認は現地に詳しい、また橋梁技術にも詳しいボランティアの助けが必要です。

リスト作成の編集作業は、主に古いバージョンの MS-Office 2000で行っています。ただし、最新のパソコンで同じデータを読み出して作業ができますが、保存のときに識別子を変えると、元のバージョンで読めなくなります。エクセルは、表形式で、セル単位で文字並びを扱います。したがって、列方向に文字数を揃え、また行方向の全体文字数そのものえを抑えるために、第 1.4.3 項で説明したように、文字並びの短縮を工夫しました。西暦年の元データは、年月日が使われていますが、年だけに抑えました。橋梁工学の専門用語にも、短縮方法を工夫しました。これについては別に解説が必要です。例えば、トラスの場合、標準的なトラス構造は、鋼下路単純トラスの8字ですが、単に3文字のトラスとしています。鋼上路単純プレートガーダー(13文字)は、飯桁(2字)に変えています。

MS-EXCELの便利な機能の一つは、行単位でデータの並べ換えができることです。列方向の文字並びは、内部的には熟語の振り仮名読みを使っています。しかし、同じ熟語並びでも、例えば愛知と愛媛とでは、「愛」の振り仮名読みがアとエと別になるため、意図しない並び換えが起きることがあります。これを避けるため、データの並べ換えに使う場合には、振り仮名データを省き、漢字の Shift JIS コードを利用するように作業をします。この方法は、元のデータ並びをコピーして一旦別の場所に「形式を選択して貼り付け」ます。このとき、セルの値だけと指定すると振り仮名データは消去されます。そうした後で、別の場所にコピーしたデータを元のデータ名並びのセル位置にコピーして戻し、データの並べ替えに使用します。

MS-EXCEL のパソコン上でのデータ並びは、そのままのスタイルで A4 版の用紙に印刷するようにします。その作業は、データ並びをテキスト形式でファイル化した上で、これを MS-WORD で取り込みます。テキスト形式のファイルは二種類選ぶことができます。行方向のセルデータの区切りに、英字のコンマを使う CSV 形式と、タブで区切る場合があります。第5章は、タブ区切りです。一行分がページ幅に収まるように、印刷フォントは、最小寸法の8ポ、プロポーションアルフォントの MSP ゴシックとしました。MS-WORD で印刷スタイルの調整を済ませたデータを、PDF 形式のファイルに落とします。このデータ変換作業は、最新バージョンの MS-WORD で行います。この PDF ファイルを WEB で公開します。ただしファイル名は、英数字並びにしています。

5. ファイル化の例(岐阜県の一部・長良川に架かる橋)

No	橋名	読み	県名	所在地	路線名/番号	架橋河川	西暦年	橋長、幅員	構造形式・構成
R0279	長良川大橋	ながらがわ	おお	愛知・岐阜	愛西市(立田町)・海津町	長良川	2002	鋼連続箱桁一部拡幅	
R0281	東海大橋	とうかい	おお	岐阜	海津町	長良川	1969	1228(425.6) 6.5	トラス I=2x60.7+5x59.4
R0283	野寺橋	の	でら	岐阜	平田町・羽島市	長良川	1935	488.5 4.5	ゲルバートラス ゲルバー-板桁
R0286	南濃大橋	なんのう	おお	岐阜		長良川	1979	495.1 7.5+2.5	連続板桁
R0287	大藪大橋	おおやぶ	おお	岐阜	輪之内町・羽島市	長良川	1988	609.4 7.75+2	連続板桁
R0288	長良川橋	ながらがわ	岐阜	安八町・羽島市	名神高速	長良川	1964	630 2x10.4	連続合成板桁 I=3x(3@69.7)
R0289	長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	安八町・羽島市	新幹線	長良川	1964	574.6 複線	連続トラス
R0290	羽島大橋	はしま	おお	岐阜	安八町・羽島市	長良川	1963	564.2 7.5	ゲルバートラス I=8@70.4
R0291	長良大橋	ながら	おお	岐阜	墨俣町・岐阜市	長良川	1933	382.7 7.4+複線軌道	トラス I=64 n=6
R0292	穂積大橋	ほずみ	おお	岐阜	穂積町・岐阜市	長良川	1965	442.3 13.5	鋼連続箱桁 I=2x(3@73.4)
R0293	長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	穂積町・岐阜市	JR東海道本線	長良川	1960	≒464複線	板桁 I=5x62. 5を架け替え
R0294	合渡橋	ごう	ど	岐阜	岐阜市	長良川	1980	374.7 19.3	連続板桁 I=2x3@62.1
R0295	鏡島大橋	かがみ	しま	おお	岐阜 岐阜市	長良川	1974	314 計 20.4	鋼連続箱桁 I=60+72+60
R0296	長良川橋梁		岐阜		名古屋鉄道	長良川			軌道 廃線
R0297	大縄場大橋	おおな	わ	おお	岐阜	長良川	1992	336.8 7.25+2.25	鋼連続箱桁 I=63+2@76+63
R0298	忠節橋	ちゆう	せつ	岐阜		長良川	1948	266 12+2@2.67	
R0299	金華橋	きん	か	岐阜		長良川	1964	301.6 11+2@2	
R0301	長良橋	ながら	岐阜		国道 256号	長良川	1957	271.5 12+2@3	鋼連続箱桁 I=50+62.5+75.6+62.5+50
R0302	鶺鴒大橋	うかい	おお	岐阜	岐阜市	長良川	2003	469 2@(7.5+4)	連続板桁 I=45+56.8+67.1+56.8+45
R0303	千鳥橋	ちどり	岐阜			長良川	1988	215.5 9.8	鋼斜張橋 I=151 鋼連続箱桁 I=6@52.5
R0304	藍川橋	あいか	わ	岐阜		長良川	1968	259.4 6(10+1.5?)	連続トラス I=2x59.64+2x69.58
R0305	岐関大橋	ぎせき	おお	岐阜	岐阜市・関市	長良川	1980	342.4 6.75+3.5	PCT型桁橋 L=7x48
R0306	保土島橋	ほど	じま	岐阜	関市	長良川	1985	168 7+2.25	連続板桁 I=5@33.4
R0307	今川橋	いま	がわ	岐阜	関市	長良川			渡舟
R0308	千疋大橋	せん	びき	おお	岐阜 関市	長良川	1960	190 7.5	トラス I=2x56 PC桁 I=3x25.4
R0309	鮎之瀬大橋	あゆ	の	せ	おお	岐阜 関市	1994	387.7 13.3	PC連続箱桁 I=100 n=3 RCスラブ橋
R0310	鮎之瀬橋	あゆ	の	せ	岐阜 関市	長良川	1987	128 6.75+1.75	連続板桁 I=40+47.2+40
R0311	山崎大橋	やま	さき	おお	岐阜 美濃市	長良川	1971	174.8	トラス n=3
R0312	下渡橋	しも	わり	岐阜	美濃市	長良川	1993	190 5+1.5	連続トラス I=54.4+70+54.4
R0313	美濃橋	みの	岐阜	美濃市	長良川	1916	114 3	吊橋 I=70 単径間、木鉄トラス補剛	
R0314	美濃大橋(新美濃橋)	みの	おお	岐阜 美濃市	長良川	1960	204	伸長 PCT桁 I=2x16.6	
R0315	天神大橋(曾代大道)	てん	じん	おお	岐阜 美濃市	長良川	1978	126.2	鋼ランガー桁橋 +板桁
R0316	立花橋	たち	ばな	岐阜	美濃市	長良川			渡船 立花の渡し
R0317	立花橋	たち	ばな	岐阜	美濃市 東海北陸自動車道	長良川	1994	352 8.7	PC連続ラーメン箱桁 I=41.75+92+139.5+77.25
R0318	第一長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	美濃市	長良川鉄道	長良川	1927	≒142単線	板桁 I=2x12. 9+5x22. 3
R0319	新立花橋	しん	たち	ばな	岐阜 美濃市	長良川	1965	118.4 8	
R0320	新立花橋歩道橋		岐阜			長良川	1985	118.75 2	鋼ランガー桁 I=1x75 合成板桁 I=24+17. 2
R0321	洲原橋	す	わら	岐阜	美濃市	長良川	1965	118.5 6	鋼二ールセン橋 I=1x75 板桁 I=24.5+17.2
R0322	上河和大橋(東橋)	かみ	こう	わ	おお	岐阜 美濃市	1979	138	トラス n=2 板桁
R0323	神母橋	かん	も	岐阜	美濃市 市道	長良川	1989	107.6 6.5	連続トラス n=2
R0324	上河和橋	かみ	こう	わ	岐阜 美濃市 東海北陸自動車道	長良川	1994	250 9	連続板桁 I=2@53.4
R0325	木尾橋(棧道)	こん	の	岐阜	美並村	長良川	1962	53. 8	PC連続ラーメン箱桁 I=61.9+125+61.9
R0326	白石橋	しら	いし	岐阜	美並村	長良川	1970	122	トラス
R0327	第二長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	美並村	長良川鉄道	長良川	1959	164.1	板桁 n=3
R0328	勝原橋	かつ	ばら	岐阜	美並村	長良川	1983	115 5	板桁 n=6
R0329	吉田橋	よし	だ	岐阜	美並村	長良川	1983	115 5	鋼ランガー桁 I=1x79 板桁 I=34.25
R0330	下田橋	しも	だ	岐阜	美並村	長良川	1973	120.3	桁橋
R0331	福野橋	ふく	の	岐阜	美並村	長良川	1988	139.7 7.5+2@2	連続トラス I=2@69
R0332	郡南橋	ぐん	なん	岐阜	美並村	長良川	1986	117.4	農道 板桁 n=3
R0333	三城橋	さん	じょう	岐阜	美並村	長良川	1977	110	トラス n=2
R0334	円空街道歩道橋	えん	くう	かい	どう	岐阜 美並村	1962	90.5	トラス 板桁
R0335	野首橋	の	く	び	岐阜	美並村 東海北陸自動車道	1989	90.5 2歩道	トラス I=1x94.8
R0336	赤池橋	あ	かい	け	岐阜	美並村	1996	370 9	板桁 n=3
R0337	第三長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	美並村	長良川鉄道	長良川	1988	120	PC連続ラーメン箱桁 I=118 n=4
R0338	第四長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	美並村	長良川鉄道	長良川	1928	≒150単線	板桁 I=(2x21)+(2x21+1x9)
R0339	講和水橋		岐阜	美並村	長良川	長良川	1961		単線 板桁 I=1x9. 8+5x22. 3
R0340	講和橋	こう	わ	岐阜	美並村	長良川	1951		水路 吊橋 RC塔 水路上を歩道
R0340	講和橋	こう	わ	岐阜	美並村	長良川	1972	133	板桁 n=3

R0341	美並橋	みなみ	岐阜	美並村	長良川	1965	99	RC橋	n=4
R0342	深戸橋	ふかど	岐阜	美並村	東海北陸自動車道	1996	206	9	鋼上路ローゼ橋 l=136.4
R0343	貝付橋	かいつけ	岐阜	八幡町	東海北陸自動車道	1996	257	9	PC連続ラーメン箱桁 l=98+108+51
R0344	第五長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	八幡町	長良川鉄道	1960	114	単線	鋼桁 l=1x22.3+シャローガーダー l=1x25.4
R0345	法伝橋	ほうでん	岐阜	八幡町	長良川	1987	75	6.75+2	トラス l=1x73.8
R0346	第六長良川橋梁	ながらがわ	岐阜	八幡町	長良川鉄道	1929	≒124	単線	鋼桁 l=5x22.3+1x9.8
R0347	稻成橋	いなり	岐阜	八幡町	長良川	1964	84.7	7	トラス 鋼桁
R0348	八幡ランプ橋	はちまん	岐阜	八幡町	東海北陸自動車道	1996	202	2x6	鋼桁。連続鋼桁 l=2@58.1。RC連続床版
R0349	勝更大橋	かつさらおお	岐阜	八幡町	長良川	1996	108	11	合成鋼桁 n=3
R0350	報得橋	ほうとく	岐阜	八幡町	町道	1990	75	6.75+2	鋼連続箱桁 l=43.5+30.5
R0351	坪佐橋	つぼさ	岐阜	八幡町	東海北陸自動車道	1997	509	10	PC連続ラーメン箱桁 l=43.25+125+80.25。PC連続ラーメン床版橋 n=3x3
R0352	中元橋	ちゆうげん	岐阜	八幡町	長良川	1971	89.2		トラス 鋼桁
R0353	和合橋	わごう	岐阜	大和町	長良川	1960	79	6.75	PC桁 n=3
R0354	大和橋	やまと	岐阜	大和町	東海北陸自動車道	1997	600.6	10	鋼連続箱桁 l=2@61.9
R0355	西河橋	にしかわ	岐阜	大和町	長良川	1985	76.4		PC桁 n=2
R0356	釜淵橋	かまぶち	岐阜	大和町	長良川	1983	79.5	7+2	合成鋼桁
R0357	名血部橋	なさらべ	岐阜	大和町	長良川	1994	95	6.75+2	連続鋼桁 l=29.6+35+29.6
R0358	万場橋	まんば	岐阜	大和町	長良川	1993	74.7		PC桁 n=2
R0359	第一上の保川橋	かみのほがわ	岐阜	大和町	長良川鉄道	1933	92.1	単線	鋼桁 n=5
R0360	上万場橋	かみまんば	岐阜	白鳥町・大和町	長良川	1973-93.2	4		PC桁 n=3
R0361	中津屋橋	なかつや	岐阜	白鳥町・大和町	東海北陸自動車道	1997	1005.6		PC箱桁
R0362	第二上の保川橋	かみのほがわ	岐阜	白鳥町・大和町	長良川鉄道	1933	104.8	単線	鋼桁 l=4x19.2+2x12.9
R0363	中津屋大橋	なかつやおお	岐阜	白鳥町・大和町	県道 52号	1994	122.5	12.8	連続鋼桁 n=3
R0364	大島橋	おおしま	岐阜	白鳥町・大和町	長良川		57.3		吊橋 木造無補剛
R0365	越佐橋	こっさ	岐阜	白鳥町・大和町	長良川	1960	72.2		PC桁 n=3
R0366	長良川高架橋	ながらがわ	岐阜	白鳥町・大和町	中部縦貫自動車道		長良川	526	PC連続ラーメン箱桁 l=106+2@156+106
R0367	中川原橋	なかがわら	岐阜	白鳥町・大和町	長良川	1983	81.5		鋼桁 n=2
R0368	奥美濃大橋	おくみのお	岐阜	白鳥町・大和町	国道 156号	1974	113.8		鋼桁 n=6
R0369	白鳥(大)橋	しろとり	岐阜	白鳥町	長良川	1989	149.2	8	鋼連続箱桁 l=2@40.8
R0370	赤瀬橋	あかせ	岐阜	白鳥町	長良川	1960	44.2	6	RC桁 l=3x14.6
R0371	第三上の保川橋	かみのほがわ	岐阜	白鳥町	長良川鉄道	1934	99.9	単線	鋼桁 n=6
R0372	大芝原橋	おおしばはら	岐阜	白鳥町	長良川	1996	96	8.2	連続鋼桁 n=3
R0373	下向山橋	しもむかはやま	岐阜	白鳥町	長良川	1963	59.7	7	歩道 吊橋 鋼塔 n=2
R0374	向山橋	むかはやま	岐阜	白鳥町	長良川	1971			吊橋 鋼塔
R0375	上切橋	かみぎり	岐阜	白鳥町	長良川		77.4	歩道	吊橋
R0376	長滝橋	ながたき	岐阜	白鳥町	長良川	1980	75		H型桁橋 n=6
R0377	平家平橋	へいけだいら	岐阜	白鳥町	長良川		54.5		PCT桁 n=4
R0378	歩岐島橋	ほきじま	岐阜	白鳥町	国道 156号		52.5		PCT桁 n=5
R0379	歩岐島大橋	ほきじまおお	岐阜	白鳥町	国道 156号	1975	103.3		鋼連続箱桁
R0380	大向橋	おおむかい	岐阜	白鳥町	長良川		48.7	歩道	吊橋 n=2
R0381	藤の森大橋	ふじのもりおお	岐阜	白鳥町	国道 156号	1986	102	6	鋼桁 n=3
R0382	油島橋	あぶらじま	岐阜	高鷲町	長良川	1995	64		連続鋼桁 n=2
R0383	下向橋	しもむかい	岐阜	高鷲町	長良川	1957	60		PC桁 n=6
R0384	観音橋	かんのん	岐阜	高鷲町	国道 156号	1990	65	10.5	鋼桁 n=2
R0385	大向橋	おおむかい	岐阜	高鷲町	国道 156号	1991	74.7	10.5	PC桁 n=2
R0386	郡上谷橋	ぐじょうだに	岐阜	高鷲町	県道 316号	1964	37.9	3.6	PC桁
R0387	中の島橋	なかのしま	岐阜	高鷲町	長良川	1984	35.4		歩道 吊橋
R0388	平成橋	へいせい	岐阜	高鷲町	長良川	1989	47	歩道	鋼斜張橋
R0389	天王橋	てんのう	岐阜	高鷲町	長良川	1952			PC桁 n=2
R0390	宮ヶ瀬橋	みやがせ	岐阜	高鷲町	長良川	1952	40.3		RCT桁
R0391	井田橋	いだ	岐阜	高鷲町	長良川	1964	35		PCT桁
R0392	新井田橋	いだ	岐阜	高鷲町	長良川	1995	46.5		合成鋼桁
R0393	中川原1号橋	なかがわら	岐阜	高鷲町	長良川		15		H型桁橋 n=2
R0394	喰栃橋	じきとち	岐阜	高鷲町	長良川		16.4		H型桁橋
R0395	折立2号橋	おりたて	岐阜	高鷲町	長良川		13.6		RC床版橋 n=2
R0396	大滝橋	おおたき	岐阜	高鷲町	国道 156号	1969	9		RC門型ラーメン橋
R0397	(旧)大滝橋	おおたき	岐阜	高鷲町	長良川		10.1		RC桁
R0398	下ノ吹橋	しものかます	岐阜	高鷲町	長良川		8.5		RC床版橋
R0399	高鷲大橋		岐阜	高鷲町	長良川	48	15		鋼桁
R0400	穴洞橋		岐阜	高鷲町	長良川	60	8		鋼箱桁
R0401	猪洞橋		岐阜	高鷲町	長良川	75	12.8		連続鋼桁 n=2